

授業改善書

科目名	初等教科教育法（理科）
担当者	長友大幸

授業の概要

小学校の理科の目標・学習指導・評価のあり方について、具体的な小学校現場の教育実践例を紹介しながら講義と実験を通して考察する。また、模擬授業を通して、今後あるべき小学校の理科授業について検討し、理科の授業における知識及び指導技術を身につけることができるよう指導する。

授業の問題点

実験や模擬授業を中心とした学習を本授業では進めるが、受講者の人数から今年度も2名1班で行うことができ、1人あたりの時間を十分に取ることが可能であった。班ごとに指導案作成やその添削を通してきめ細かく指導し、全員1回は模擬授業を行うことができた。

例年問題点としてあげられることではあるが、理科という教科の性質上、実験道具や設備が必要になることがあるため、実施可能な実験内容に限りがある。そのため、模擬授業を行う際に選択できる授業内容に影響がある。また、春期に理科を履修していない場合、本授業で初めて理科に接することとなる。そのため、知識が曖昧のまま模擬授業を実施することがあることが問題点としてあげられる。

学生の授業満足度

学生は各自が工夫して教材をつくり、指導案を立てて熱心に授業に参加していた。それが授業アンケートの結果にも見られており、「授業に満足」が4.63と4.88と高くなっている。

本授業は演習的要素を多く含んでいるため、例年学生自身が積極的に動く場面を数多く作ることができおり、その点が良いのではないかと考える。

授業改善の課題と方策

今後の課題としては、受講者数が定員一杯になったときも、本年と同じように授業を進められるようにすることである。また、春期に「理科」を履修せずに秋期になって本授業ではじめて理科に接する学生がいるが、その際に、基礎知識を身につけさせた上で模擬授業に取り組みせるにはどうすればいいか考えていく必要がある。

その他

--